

なぜか幸せな心臓手術 ④

高橋 一郎

映画監督でありCOMLのボランティアメンバーでもある高橋一郎さん。

昨年心臓の大動脈弁置換術を受けられたのですが、
そのご経験について「**すごく幸せで、病気になってよかった**」とおっしゃっていました。
その体験を連載で綴っていただいています。



●二回目の入院

2013年暮れの検査入院一週間に加え、年明け早々4日間の検査を経て、いよいよ手術を受けるための入院ということになった。検査入院と違い今回は荷物が多い。冬なので服もかさ張ってる。両手に手荷物の格好で(まるで海外旅行に出かけるみたい)カミさんにも荷物を振り分け病院へ出かけた。

入院手続きを済ませ、心電図とレントゲン、採血などをおこなった。しばらくは時間があるらしい。買い物をしておかねばならない。事前にもらった入院案内のプリントを見る。胸部手術を受ける患者が用意するものは、T字帯1枚、ティッシュ1箱、尿とりパット2枚、バスタオル2枚、タオル3枚、前開きのパジャマ2組、下着2枚、吸いのみ、コップ、歯磨きセット、お箸、スプーン、はきもの(はきなれた物)、ナイロン袋(洗濯物を入れる)5枚、ひげそり等と書いてある。病院のコンビニで必要なものを買った。吸いのみは永らく見ていなかったが、昔ながらのクラシックな形を保っている(妙に感心した)。

●医療費の手続き

入院案内のほかにも事前に受け取った書類がたくさんある。医療費についての手続きをしておかなければならない。私の受ける心臓弁膜症の手術は更生医療の対象となり、自立支援医療費の支給を受けることができる(……らしい、こんなこと全然知らなんだ)。あらかじめ区役所の障害福祉課へ出向いて関係書類をもらい持参するように言われていたので、その書類を窓口に出した。高額療養費制度の「限度額適用認定証」は先の検査入院でも必要だったので取ってある。そういえば限度額適用認定証にからんで前年の精算でちょっとしたことがあった。退院したのが年末で病院事務局は休みに入っており、精算は年明けにすることということで、少し間をおいた新年に郵便で請求書を受け取った。見ると思いのほか料金が高めである(限度額適用認定証

を提示してあるのに……)。おかしいなと思いすぐ電話をかけた。代表から会計へつながり経緯を話した。係の人は「すぐに調べるので」といったん電話が切れた。しばらくして返事があった。請求間違いだったそう。 (そんなアホな、と) 普通ならこちらはムツとする場面だが、連絡が大変スムーズであり、謝罪の言葉も丁寧でかえって信頼感が増すように思えたから不思議である。顔が見えないやりとりだけに結構難しいコミュニケーションだと思うが(日頃から訓練されているのであろう)、病院対応もひと昔前とはひと味違ってきていると感じたのだった。

●書類が多い

「入院申込書及び診療誓約書」もあらかじめ渡されていたのでサインしておいた。読んでみる。「患者様の責務」と書いてあり、具体事項として「他の患者様の迷惑となるような行為、行動を行わない」「理由の如何にかかわらず、他の患者様、あるいは職員に対する暴言、暴力を行わない」「敷地内で喫煙、飲酒を行わない」「主治医の許可の無い外出、外泊を行わない」「許可のある外泊、外出時においても、暴飲、暴食等の療養指示違反を行わない」「治療費を支払う」と並んでいる(ま、これは当然か)。でもこういうことが実際あるから書いてあるんだろうね。ところで次のふたつの項目には興味をひかれた。

「ご自身の健康状態や病気に関する情報は、可能な限り病院に伝える」と「主治医から説明を受け、納得、同意された治療に関し、患者様自身でも主体的に参加する」という文言である。どこかで聞いたことがある……。そうだ、コムルが発行している「新・医者にかかる10箇条」にこんな文言がなかったか……。ネットで調べてみよう。あった。「④自覚症状と病歴はあなたの伝える大切な情報」「⑥その後の変化も伝える努力を」「⑩治療方法を決めるのはあなたです」。(似ている……)。いつからこのような文言が診療誓約書に取り入

れられたのかわからないが、医療は患者が主体的に参加するもの（いまや当たり前のことだけ）だという考え方がはっきり書かれている。20年ほど前と比べると患者と医療者の関係がずいぶん変化したものだと思う。

ほかにも「個人情報に関する同意書」「（手術、処置、検査）に関する同意書」「輸血・血液製剤療法等に関する同意書」「深部静脈血栓症のリスクおよび予防処置についての説明・同意書」などなど、サインした書類を（わかったような顔をして）提出した。

● 言葉の山

しばらくして麻酔科医のD医師が来た。ナースステーション横の問診室で全身麻酔の説明を受けた（カミさん同席）。麻酔説明書と麻酔同意書が一緒になったプリントを受け取り話を聞いた。最後に私とカミさんが連名で同意書にサインした。聞いているときはふんふんとうわかったつもりだが、あとで内容を思い出そうとしてもほとんど思い出せない。プリントは手元に残っているので「こんな話を聞いたんだ」とわかる。人間の記憶は当てにならないものだ。まして入院手術となると馴染みのない言葉の山を（わかったような顔をして）登らねばならない。結構大変である。

続いて手術室担当のe看護師が来た。部屋のベッドで手術前後の説明を受ける。4人部屋なのでさすがに抵抗を感じた。先ほどの麻酔の説明のようにどこか別の部屋でやっていただきたいものだ（部屋が空いてなかったのかしら）。ほかのベッドの人もあまり聞きたい話ではないだろうと思う。「全身麻酔を受けられる患者様へ」というプリントを受け取った。内容は「入室から麻酔がかかるまで」「麻酔のかかりははじめから手術中」「手術終了から退室まで」と三つのブロックに分かれており、チェック項目がたくさん並んでいる。e看護師がひとつずつチェックをつけながら話すのを聞いていた。話の内容はよくわかった。手術が終わったあとはCICUへ運ばれるらしい。最後に「何かご質問はありませんか」と聞かれたので私は反射的に「CICUの頭のCは何の略語ですか」と問うた（……何を聞いているんや）。e看護師は予期しない質問にとまどったらしい。しばらく考え込んでいたが「ごめんなさい、わかりません」と答えた。（こちらこそ、しょうもない質問してゴメンナサイ）。空気を読まない質問だった（反省）。でもせっかくなのであとで調べてみた。CICUはCardiac Intensive Care Unitの略語である。Cardiac=心臓（病）の、ICU=集中治療室。Cardiacという言葉（知らなんだ）、肝に銘じておこう。

● お気に入りのラウンジ

病棟のラウンジは結構広いスペースで私は気に入っていた。検査入院のときから可能な限り食事もここへ運んできてゆっくり食べた。空いている車椅子を借りて、それに食事のトレイを乗せて運ぶ。ほかにもいろいろ乗せて運ぶことができる。車椅子は座っても楽だし便利に使わせてもらった。その夜もラウンジでコーヒーを飲みながら本を読んだり、テレビを見たり、ぼんやり考え込んだりしていた。明日は日曜で診療はない。月曜に準備をして火曜はいよいよ手術を受けるんだ……などと思いをめぐらせていた。心臓外科のE医師が来て声をかけられた。初めてお会いする方だった。「私が執刀しますの」ということだったので「よろしくお願いします」と挨拶した。C医師が最終的な手術の内容について話したいそうなので明日にでも、ということだった。そうだ、日曜で診療がないのは外来だけだった。病棟には患者がいるのだから、日曜も関係ないのだ。

複雑な夢を見た。私は映画館のなかにいる。あたりは暗く何か映画が上映されている。私は片隅でアラブ系の二人の子どもに向かって私の聞いた話をしている。周囲に聞かれないようヒソヒソと話した。タリバンの男について話していたのだと思うが（タリバンとアルカイダがごっちゃになってる）、その男は寝返ってタリバンとなったようだった。その話をプレゼンするために私はある会場で順番を待っている。そこはなぜか堺市のどこかという気がした（訳がわからん）。私は発表の順番がわからず、待たされている。順番はまだ少し先になりそう。会場のプレゼンの様子を見て知人がずいぶんつまらない内容だと私に話した。そこに80%という数字が突然示された。何が80%？ 私は宿題をしていたのだろうか？ 80%くらいの力の出しようで十分だ、というような感触を感じていた。

表向きは平静を装っていても、内面は不安でいっぱいなのだ。初めての手術体験だけに要領がわからない。事態は予定に従ってどんどん進行していく。目の前で見慣れない言葉や数字が次々と示され飲みくたしていかなければならない、が、飲みくたせる量は限られている、時間がかかる、大切なことばかりだ、何せいのちにかかわることなのだから。しかし焦ってみたところで仕方なからう。「80%くらいの力の出しようで十分だ」という夢のお告げを覚えておこう。私のやれることは決まっている（以上、夢の素人解釈でした）。

翌朝も明るい光が差すラウンジで朝食を食べた。メニューは食パン二枚とサラダ、牛乳。パンは一枚だけ食べた。

（つづく）